

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

|       |     |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 福島県 |
|-------|-----|

学校の概要(平成16年1月現在)

|     |                  |    |    |    |    |    |      |    |     |
|-----|------------------|----|----|----|----|----|------|----|-----|
| 学校名 | 福島県南会津郡田島町立檜沢小学校 |    |    |    |    |    |      |    |     |
| 学 年 | 1年               | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特殊学級 | 計  | 教員数 |
| 学級数 | 1                | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1    | 7  | 11  |
| 児童数 | 15               | 16 | 9  | 14 | 8  | 16 | 2    | 80 |     |

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」を身に付け、自分自身を高め続ける児童の育成  
～算数科の実践を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

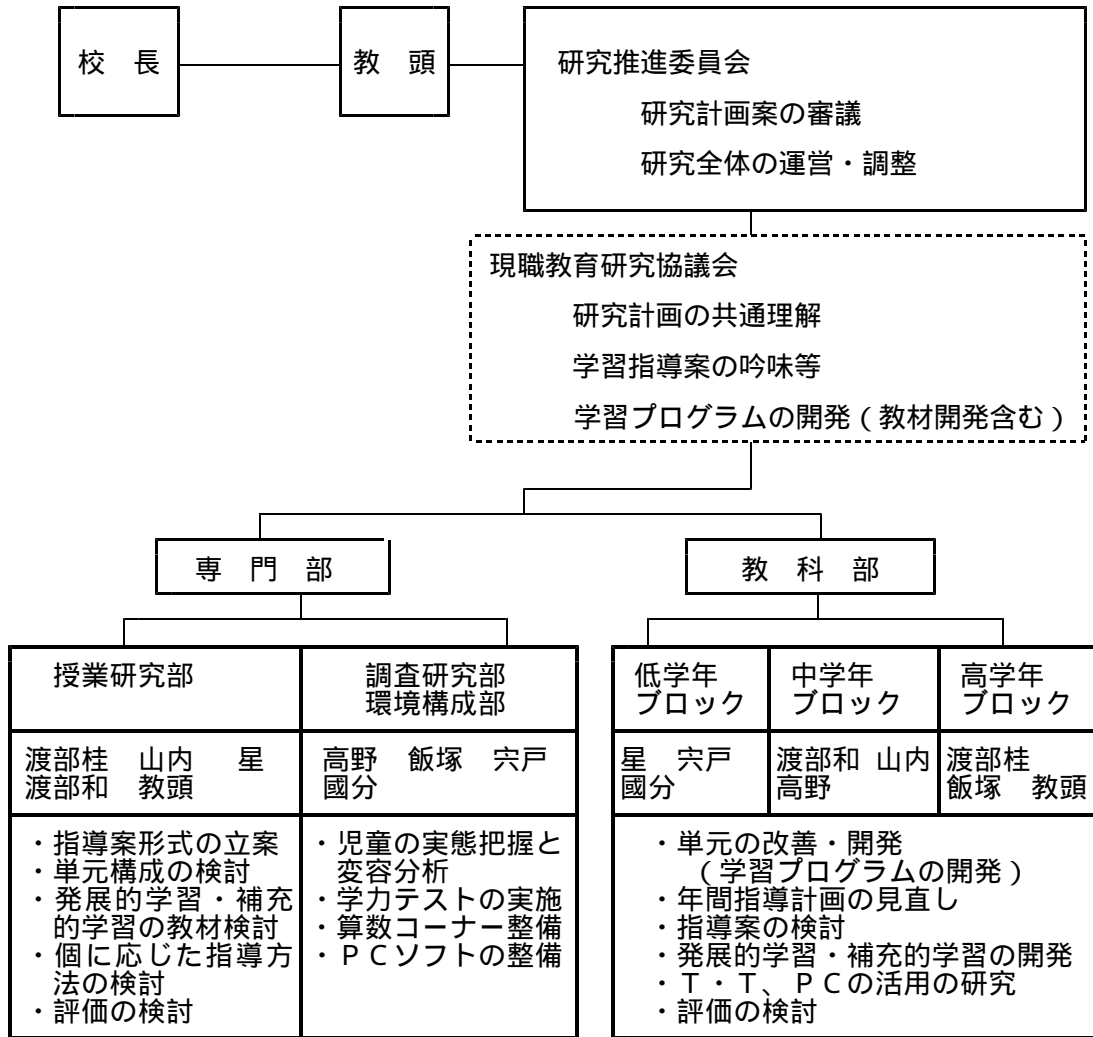
・全学年・算数  
児童の理解や習熟に差が出やすい教科であるため、全学年で取り組む。

(2) 年次ごとの計画

|        |  |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>研究テーマ<br/>「確かな学力」を身に付け、自分自身を高め続ける児童の育成<br/>～算数科の実践を通して～</p> <p>研究の見通し<br/>算数科において、児童の思考過程に寄り添いながら、個の学びに応じた単元を構想し、児童の習熟度に応じた指導のし方を工夫していけば、主体的に学習に取り組み、「確かな学力」を身に付けた児童が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法<br/>視点 個の学びに応じた単元構成・教材の開発、指導方法の工夫<br/>発展的・補足的な学習を視野に入れた単元構成<br/>習熟度に応じたコース別学習の工夫<br/>発展的・補足的な学習の教材の開発<br/>T・T指導の工夫<br/>PCの活用<br/>視点 少人数学級の特性を生かした評価の工夫<br/>算数好きの子を育てる教材の開発・指導方法の工夫<br/>学習意欲を喚起する教材の開発(地域素材の活用)<br/>学ぶことの楽しさを味わわせる指導方法の工夫<br/>意欲を高め、成就感を得る評価の工夫</p> |
|--------|--|

|        |  |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>テーマ<br/>「確かな学力」を身に付け、自分自身を高め続ける児童の育成<br/>～算数科の実践を通して～</p> <p>研究の見通し<br/>算数科において、児童の思考過程に寄り添いながら、個の学びに応じた単元を構想し、児童の習熟度に応じた指導のし方を工夫していけば、主体的に学習に取り組み、「確かな学力」を身に付けた児童が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法<br/>視点・視点は、前年度と同じであるが、2・3月に反省をまとめ、内容を精選する予定である</p> |
|--------|--|

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

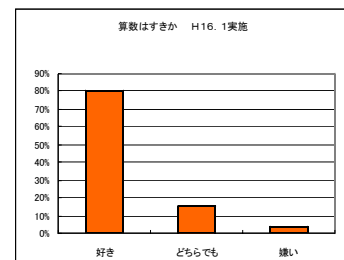
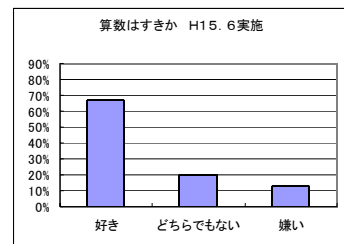
1. 研究成果

児童の学習意欲が高まってきている。「算数が好き」という児童は平成15年6月では67%であったが、平成16年1月の段階では14%増加し、80%を超えるようになった。

また、「問題の解き方を見つけたり、考えたりする学習」や「学習したことをもとにしてさらに問題を解くとき」に算数の学習の楽しさを感じる児童が増えてきている。

それは、「わかる授業」をめざして次の手立てを講じてきた成果と考えている。

- ・ T・Tの役割演技による課題提示やT・Tによる個別指導等により、児童の理解を図り、学習意欲を高めることができた。
- ・ 反応やつまずきを予想し、支援のための教具の作成や活用を通して、児童の学習に対する理解を深めることができた。
- ・ 一方的に教師の言葉を与えるのではなく、算数的



活動を位置づけ、児童がとらえた学びを生かして学習を展開することができた。

- ・ 小単元や単元末に習熟度に応じたコース別学習や発展学習を位置づけたことにより、個々の学びの実態を踏まえた指導を行うことができた。  
また、自己評価と各コースの目的や内容の説明から、児童自身が学習するコースを選択できるようにしてきた結果、目的意識をもって学習に取り組む児童が増えてきた。
- ・ 発展的学習を積極的に行い、学習したことを生活の中で生かすことができる授業の展開に努めてきた。

## 2. 今後の課題

- (1) 学力テストの結果分析で明らかになった児童個々のつまづきを解消するための効果的な指導のあり方や、指導計画への位置づけを明確にする。
- (2) より確かに基礎・基本の定着を図るため、60分モジュールの授業を計画している。その効果的な指導方法・内容を確立する。
- (3) 「確かな学力」を身に付けるためには、より一層「わかる授業」の展開に努める。
- (4) 加配教員が無いので、現有組織の中で、T・Tによる指導体制確立のための時間の確保を創意工夫する。

### 学力等把握のための学校としての取組

#### 1. 学力の分析

平成15年2月に実施した学力テストの結果を一人ひとり分析し、習熟が足りない領域や内容をおさえて指導にあたった。

#### 2. 学力テストの実施

平成16年2月17、18日に国語・算数のテストを実施する。

- (ねらい)・ 児童の学力の実態を知り、児童個々の学習指導の手がかりや重点を把握し、指導をより効果的・能率的なものに改善していく。
  - ・ 知能と学力の相関を知り、児童個々の指導に役立てる。
  - ・ 学校全体の学力の傾向をつかみ、今後の研究の方向づけに生かす。

#### 3. 意識調査の実施

6月と2月に調査を実施し、児童の変容をとらえ、指導方法の改善に努める。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

#### 1. 研究会の開催予定

平成16年10月22日(金)研究発表会

- (ねらい)・ 本発表を田島町教育研究会の開催日に合わせ、学習指導部の会員を対象に研究の成果を発表するとともに、域内にも参加を呼びかけ、広く研究の成果を普及する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上

【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他

【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無